

どんな商店街？

広島中央通商店街振興組合は、商店街組織としては昭和26年に中央通商店会として組織され、平成3年(1991年)に現在の「広島中央通商店街振興組合」が設立されました。

福屋・ヤマダ電機からセブンイレブン・本州会館までの中央通りの約300メートルの両側で、交通の利便性に優れた立地に恵まれています。西に、そごう・本通・金座街など、東に三越・流川・薬研堀などに挟まれ、福屋・パルコ・ヤマダ電機・ドン・キホーテなど大型店を擁しており、まさに広島の中心の商店街です。

ゆかたできん祭(とうかさん)・えびす大祭などでは中央通りは歩行者天国となり、祭りのメイン会場となります。

商店街の最大の課題は、中四国地方随一の繁華街である八丁堀地区の中央通りに立地し、昼間の物販・飲食ゾーンと夜間の飲食ゾーンの結節点に位置し、広島市内・郊外各所を結ぶバスや路面電車の停留所が数多く設置され、交通の利便性も非常に高く、昼夜を問わず県内外の来街者が非常に多いという好環境にありながら、個店への来店頻度や収益に結びついていないということにありました。



また、新型コロナウイルスの感染拡大により、商店街の各店舗の売上が減少し、特に会員店舗の顧客は高齢者が多く、影響が顕著に表れました。



花と緑の街づくりを目指して

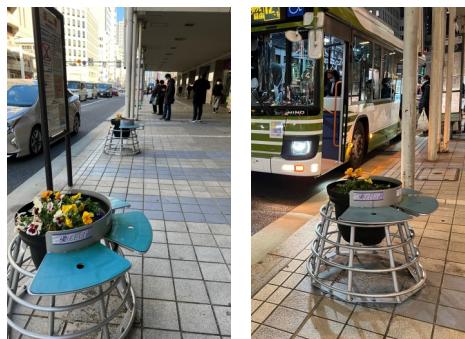
広島中央通商店街振興組合

■人にやさしいフラワーポット事業

商店街では、電線の中地化のほか、カラータイル歩道やアーケードなどの整備が完了した平成6年から、フラワーポットを設置し、「憩い、潤いのある花と緑の街づくり」を目指しています。

会員店舗では、安全で清潔な通りを維持できるよう清掃活動を積極的に行い、フラワーポットには常に生き生きとした花を咲かせるよう活動しています。

しかしながら、従来のフラワーポットは経年劣化により、陶器部分にひびが入るなど、入替の必要が生じていました。



また、新型コロナウイルスの感染拡大により、特に高齢者の外出控えが顕著となっていたことから、「3密」を避けながら、「安全・安心で休憩スペースがあり、利用しやすい商店街」を実現するための取組を進めていく必要がありました。

そこで、荷物を置いたり、 Choiy掛けができる新しいフラワーポットを製作し、特に交差点やバス停付近に設置することで、来街者の回復、滞在時間の増加に取り組んでいます。

■情報発信力を高める

県内外からの来街者が多いという利点が、個店の来店頻度に結びつきにくいという課題については、情報発信力を高めることで解決しようとしています。

平成31年度には、「広島市商店街活性化事業費補助金」を活用し、個店の紹介や、増加する外国人観光客への対応力強化のため、英語にも対応したホームページを作成しました。

また、令和2年度には、同補助金を活用し、「3密」を避けたテラス営業を行うため、店舗の一覧マップや看板を作成するなど、情報発信力の強化に取り組んでいます。

